

議案

【 市長提案説明 】

本日は、令和8年第2回市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には、何かと御多用の中、御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

定例会の開会にあたり、提出いたしました諸案件の説明に先立ちまして、本市の情勢等について申し上げます。

まず、社会経済の動向を踏まえた取り組みについてであります。

現在、中東情勢の不安定化により、国際物流やエネルギー供給への影響が及ぼされています。エネルギー資源を海外に依存する我が国では、燃料・電力価格や物価の上昇が市民生活、地域経済に及ぶ懸念があります。

こうした中、本市としては、市民の皆様の暮らしを力強く支えることを最優先に取り組んでいます。その一環として、現在、国の重点支援地方交付金を活用し、19歳以上の市民の方一人ひとりに5,000円を給付する『実感』手元に現金5000円お届け事業』を実施しております。

本事業では、約12万人の市民の方々に、支援をより分かりやすく、そして確かな実感をもって受け取っていただけるよう、現金でのお渡しを基本としております。6月9日時点で、セブン銀行では67,000件を超える申請をいただいております、また、現金書留では、既に13,000件を超える方に配達を終えております。

また、この事業を通じて、70歳以上の方には、これから暑さが厳しくなる季節に備えて、郵便局員が書留をお届けする際に、熱中症予防や、近年増加傾向にある特殊詐欺への注意を呼び掛けることで、高齢者の見守りにもつなげております。

引き続き、迅速かつ丁寧な給付に全力で取り組んでまいります。

さらに、政府においては、7月から9月までの電気・ガス料金の支援を含めた補正予算が国会にて成立いたしました。その動向にも注視しながら、市民の皆様の暮らしや地域経済を守るため、迅速に対応してまいります。

次に、本市初の施設一体型義務教育学校「多度学園」が、本年4月に開校いたしました。

私も参列した開校式では、閉校した5校の歴史と思いを、新しい校旗へと託す「校旗のバトン」が行われ、一つの学校として大きな一歩を踏み出しました。1年生から9年生までの児童生徒789人、そして教職員105人が一丸となってスタートを切る中、生徒会長の「協力して新たな学校を築いていこう」という言葉を聞き、多度学園が輝かしい未来へ力強く歩み出すことを確信いたしました。

思い返せば、この開校に至るまでには、実に10年の歳月を要しました。その中で、私が強く実感いたしましたのは、地域の皆様の、地元の学校に対する深い愛情と、子どもたちの未来を真剣に考える熱い思いであります。

多度地区の皆様が様々な議論を重ね、熱心に話し合っていたからこそ、多度学園は、新たな地域の学校として大きな一歩を踏み出すことができました。改めて、これまで御尽力いただいた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

そして、多度学園には、地域と共に歩み、未来を担う子どもたちの夢や希望を育む学び舎となることを期待しております。

今後も、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するため、学校再編を着実に進めてまいります。

そして本年10月には、NTN総合運動公園内に屋内プールが開業します。市民の皆様の健康増進とともに、子どもたちの健やかな成長を支える拠点として、学校教育とも連携し、多度学園等の水泳授業にも活

用することで、天候や季節に左右されない安全で質の高い学習環境を確保してまいります。

次に、国際交流の推進であります。

2016 年の「ジュニア・サミット in 三重」開催から 10 年を迎えた本年、その功績を振り返るとともに、次世代の若者への期待を共有するため、「ジュニア・サミット 10 周年記念シンポジウム」を先月開催いたしました。このシンポジウム開催にあたり、当時、総理大臣夫人としてジュニア・サミットにご参加いただきました安倍昭恵様よりお祝いのビデオメッセージを賜り、未来を担う若者への期待と応援の言葉をいただきました。

また、シンポジウムの中では、当時日本代表として参加された方から、「若い時からたくさん挑戦し、様々な世界を見ることが大事」とのお話がありました。これは私も大いに共感するところでもあります。

これからの時代、地域に根差しながらも、世界を視野に入れて考え、行動できる人材がますます重要になってまいります。

こうした考え方に基づく取り組みとして、本年 8 月には、スーパーサイエンスハイスクール認定校である桑名高校の生徒が、半導体分野で世界トップクラスの国立陽明交通大学が主催するサマープログラムに参加する予定です。最先端の教育環境に触れることで、グローバルな視野を養うとともに、未来の半導体人材を育成することを目的としております。

私も同じ時期に、台湾の半導体企業である UMC への訪問を予定しております。現地で学ぶ生徒を激励し、併せてトップセールスにも力を入れてまいりたいと考えております。

引き続き、このような国際交流の取り組みを通じて、世界を視野に未来を創造できるグローバル人材の育成に努めてまいります。

次に、誰一人取り残さない社会の実現であります。

まず、子どもをまんやかに据えた施策では、未来を担う子どもたちが安心して育ち、自分の思いや願いが大切にされるまちの実現に向け、「こどもまんなか」の理念のもと、県内初となる公私連携型で、子育て支援センターの機能も備えた「桑名たいりん保育園」が本年 4 月に開園いたしました。桑名駅前という利便性の高い立地で、子どもの健やかな育ちを支えるとともに、子育て家庭の負担軽減を図ってまいります。

また、近隣の旧子ども・子育て応援センター「キラキラ」は機能転換を図り、近年深刻化する孤独・孤立への対策として、ひきこもり地域支援センターを、本年 10 月の開設に向けて準備を進めております。

孤独・孤立やひきこもりの問題は、特定の世代や家庭に限られるものではありません。ひとり暮らしの高齢者、学校や職場になじめず孤立する若者、障害や病気など、さまざまな背景を持つ方々に関わる深刻な課題であります。これらの問題は当事者だけで抱え込むべきものではなく、社会全体で受け止め、必要な支援につなげていくことが必要であります。

このセンターの開設を通じて、こうした悩みや課題を抱える方々の声をしっかりと受け止め、一人ひとりが社会とつながり、自分らしく歩んでいくための支援体制を構築してまいります。

次に、桑名駅周辺整備であります。

桑名駅周辺整備のうち、まず、駅東側につきましては、桑栄ビルの解体工事がついに本年 3 月に着手され、年内 12 月ごろには完了する見通しとなっております。長年にわたり駅前の一角を担ってきた同ビルの解体は、今後の駅前空間の再編に向けた大きな節目となるものであります。

今後は、ホテルと駅前広場の一体整備の着手に向けて、関係者との調整を丁寧に行うとともに、必要な検討を重ねながら、着実に準備を進めてまいります。

また、駅西側におきましては、賑わい創出を目的とした社会実験を進めており、観光協会の運営により、カフェや観光物産案内所、トイレを備えた多目的施設「クワナベース」が、本年 7 月 19 日にオープンする予定です。市民の皆様や来訪者の皆様に気軽に立ち寄っていただける場として、駅周辺の回遊性向上にもつなげてまいりたいと考えております。

引き続き、桑名の玄関口としての魅力を高め、まち全体に賑わいと活力をもたらすような、桑名の顔にふさわしい新しい駅前空間の整備を進めてまいります。

次に、国道1号桑名東部拡幅事業であります。

国道1号桑名東部拡幅事業は、国の事業として、老朽化した伊勢大橋の架け替えと4車線化を図る工事が進められています。事業促進に向けては、議会をはじめ地域関係者のご賛同のもと事業促進期成同盟会を設立し、国土交通省をはじめ関係省庁や国会議員に対し、早期完成を求める要望活動を継続してまいりました。現在、長島側から中堤に向けて橋梁上部工架設が進み、工事の進捗を目に見えて実感できる状況となっており、現場を目にした市民の方々からは大きな反響をいただいております。

今年度は、揖斐川の福島側から中堤までの橋梁上部工発注に向けた準備も進められております。工事がさらに進むことで、市民の皆様にも事業の進捗を一層実感していただけるものと考えています。

今後も国と連携し、必要な予算確保に向けた要望を続け、着実に事業を進めてまいります。

次に、中日ドラゴンズ2軍拠点の誘致につきましては、先月、中日新聞社と中日ドラゴンズが「ファーム拠点移転プロジェクト」を発表し、移転先の公募を開始しました。

新聞報道によれば35市町から問い合わせがあったとのことで、誘致競争の激化を強く実感しています。

本市はかねてより強い関心を持っており、ファーム拠点の誘致は、地域の活性化や交流人口の拡大はもとより、子どもたちの夢やスポーツ振興にも大きく寄与する絶好の機会であると考えております。今後、具体的な提案書の作成に向け、スピード感を持って取り組んでまいります。

こうした新たな挑戦を確かな成長へと結び付ける土台にあるのは、桑名が誇る揺るぎない伝統です。桑名を代表する夏の風物詩である石取祭は、2016年のユネスコ無形文化遺産登録から10周年の節目を迎えます。先人から受け継いだ歴史や文化を大切にしつつ、新たな価値を生み出していく温故知新の精神は、これからの桑名のまちづくりに欠かせないものです。

この節目に合わせ、博物館では、10周年記念展示「石取祭 法被百景～絢爛の意匠、鳴り響く鼓動～」を開催いたします。開催期間は7月31日から8月16日までで、石取祭の期間中は夜間開館するナイトミュージアムを実施します。展示では、桑名出身の空間デザイナー藤枝智美さんによる会場コーディネートのもと、祭りに参加する町の象徴である法被を一堂に集め、祭車模型や染織品などとともに、石取祭の歴史と文化を紹介します。ぜひ、桑名の誇る石取祭の世界をご体感いただけたらと思います。

また、こうした温故知新の精神は食文化にも息づいています。先日、私は官邸で高市総理と面会し、本市特産のはまぐりを贈呈いたしました。桑名が誇り、守り育ててきた地域資源の魅力を総理に直接お伝えでき、多くの報道機関にも取り上げていただいたことは、本市のさらなる発展の大きな推進力となります。今後もあらゆる機会を逃さず、桑名の魅力を広く発信してまいります。

このように、今、桑名では、伝統を大切にしながら、新たな挑戦が次々と動き出し、しっかりと前に進んでおります。先人から受け取ったバトンを確かな成長へとつなげ、将来を見据えたプロジェクトを着実に推進し、桑名のまちづくりの挑戦をさらに加速させてまいります。

議員各位におかれましては、より一層のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

それでは、今定例会に提案いたしました諸案件のうち、はじめに、議案第55号「財産の取得について」、その概要をご説明申し上げます。

本議案は、昨今の社会情勢を踏まえ、必要なごみ袋を速やかに確保するため、市指定ごみ袋のうち、可燃物用(大)300万枚を購入することについて、桑名市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を求めるものであります。

よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

注) 上記の市長提案説明は、実際の発言と異なる場合がありますので御了承願います。
(会議録が正式な発言記録となります。)